

**立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトⅡ（教員・学生参加型） 2022年度研究成果報告書**

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	コミュニティ政策学科・4年	高木裕人
指導教員	所属・職名	氏名
	コミュニティ福祉学部・教授	藤井敦史
研究課題	高校生及び大学生の自己探求を促進させるワークショップ開発	
研究年度	2022年度	
プロジェクト 分担者	矢沢あすか、大橋七香、川又夏水	

プロジェクトの内容及び成果の概要

私たちは高校生及び大学生を対象とした対話による自己探究のワークショップを開発した。本プロジェクトの背景には、高校生が無目的に進路選択を迫られているという現状がある。例えば、大卒という資格取得ありきで進学する生徒が多いことやブランド力で進学する大学を選択することなどが挙げられる。このような社会の現状に課題感を抱き、私たちは高校生が進路選択において、人生の目的を見つけ、それを軸に判断して欲しいという思いから本プロジェクトを始動した。

本プロジェクトでは、ワークショップの開発、大学生ファシリテーターの育成、実際に高校生を招いてワークショップを開催、キャリア教育の観点から知見を深めるための京都大阪出張を実施した。その中でも、実際に高校生を招いたワークショップの開催は印象的なまなびがあった。

私たちは、本プロジェクトを2021年の12月から始動させた。そして、実際に完成形を高校生に届けられた時期は2023年1月である。つまり、プロジェクト始動から1年以上が経過し、遂に自らの力で高校生に届けられたのである。そして、私たちは実際に高校生に提供したことで、参加した高校生から貴重なフィードバックを得ることができた。特に、印象的であったフィードバックは、「楽しかったけど、道德の授業を受けているような感じだった」と高校生のひとりから言われたことである。無論、ワークショップは高校生が楽しみながら自己探究や対話を活性化できるようにワークシートやアイスブレイクを工夫した。ただ、高校生からすると、それらも道德の授業の一環のように感じたということであった。それ自体が悪いことでは無いが、私たちが想定していた感想とギャップがあったため、私たちはこの感想から現状の課題を見出すことができた。

最後に、今後も本プロジェクトは継続して運営する予定である。高校生から得た貴重なフィードバックや京都大阪出張で得た様々な方のご意見を反映させたバージョンを制作していきたい。また、大学生にとっても、高校生と接することは貴重な経験であり、自己内省のきっかけとなる。つまり、本プロジェクトが自己探究を促進させる対象は、高校生のみならずファシリテーター側の大学生も入る。これらのことから、今後は高校生に対する提供価値だけでなく、大学生の育成の観点からもワークショップの開発に取り組みたい。